

## 補足資料

令和3年度第二回琵琶湖博物館協議会（令和4年3月12日）

第三次中長期計画の評価についてのご意見より

### ●目標がどれくらい達成できたかの指標は？

→毎年度の事業について、数値目標と達成度を数字で示そうとすると、そのことにとらわれてしまって、中長期的な目標を見失う可能性を懸念しています。今回行おうとしている評価は、各年度の成績ではなく、目標に向かって活動できているか？目標に近づけているか？についての点検をするような考えです。

そのため、外部評価では、内部から見ている自己点検について、外から見るとその点検はどう見えているか？について意見をさせていただいたり、もっと別のやり方で目標に向かえるなどの意見をいただければありがたいです。

つまり、内部評価にとっても、外部評価にとっても、目標設定とその方向性の共通理解が非常に重要と思われるので、後ほど詳しく紹介します。

なお、目指している目標は、10年後をみすえています。5年計画で一度くぎりをつけますので、その時には、目標にどれくらい近づいたか？ということの調査と評価をする予定です。その数値的な目標値についても、検討中です。

### ●評価の時期について、年度終了後から実施するのでは遅いのでは？

→年度終了時では次年度事業にすぐには反映できないとのご意見はもっともだと思います。ただ、今回実施しようとしている評価は、先ほどのとおり、目標設定に向かって実施しているかどうか？といった点検的要素が強いため、事業計画の見直しも含めた、方向性の修正といったやや長めの視点で修正を検討していきたいと思っています。もちろん、すぐさま検討が必要なことについては、その都度検討をしていきます。



イメージ図

## 琵琶湖博物館の使命から想定される 10 年後の社会の姿

(基本計画 8 ページ)

多くの人々が琵琶湖とともに生きることを価値を感じ取ることができ、その幸せが将来にわたって継承されていく社会。

誰もが日常の中で、湖との暮らしのより良いあり方を探求・実践でき、その成果を多くの人と共有する機会を持っています。

また、様々な人びとが出会い、学びあうことで新たな発見や活動の持続が可能になります。

→この目標について、どういう事業を行ったらたどり着けるのか？直接的に考えることは難しい

→実際に実施する事業目標から、第三次中長期計画の目標へ向かう考え方の筋道を考えます (図)

【図1】第三次中長期計画の目標へ向かう考え方の筋道

